



二口越え最上街道の宿場(駅)であった馬場村の町から、野口(上ノ原)、森安までの道ばたの石塔を訪ねました。

馬場の町は秋保家の分家である馬場秋保氏が上館(愛宕神社)、後に今も石垣が残る豊後館を構えた街道の要衝です。

村や村の中にある集落の「組」、宿駅である「町」の生活共同体に住む人々が、神や仏を信じ、五穀豊穡や無病息災、家内安全を祈って道ばたに建立した石塔。

野口地区の石塔には、村里に住み着いた修験者である里山伏が導師となり建立した石塔があり、修験者の供養塔も見られます。

# 秋保 いってみっぺ

## 道ばたの神々Ⅳ 馬場(駅~野口~森安)編



**馬場町北の石塔群**  
かつては街道筋に建てられていたものが、その後の道路整備で支障となりこの場所にまとめられたものと思われるのが、地区の人々に大切にされているようです。ここには享和二年(1802年)に當町女中(馬場の町場の女性達)と施主が刻まれた「地藏菩薩座像」が鎮座しています。また、秋保地区では他に確認されていない灯籠型の「六面幢」が二基あります。明和八年(1771年)と天明五年(1785年)建立のものです。天明五年のものがしっかりしていて、六道名と六地藏の名前が読み取れます。

### いってみっぺ 秋保 道ばたの神々Ⅳ 馬場(駅~野口~森安)編

企画・発行：秋保地域資源活用委員会・仙台市  
連絡先：秋保総合支所総務課(022-399-2111)  
秋保市民センター(022-399-2316)

二口越え最上街道の宿駅であった馬場町から大滝に至る道傍には六面幢等の供養塔の他に五穀豊穡や安産・子宝祈願の山神碑が多く見られます。



馬場駅(街道宿駅の雰囲気が残る家並)

掲載されている情報は、令和4年3月現在のものです。

訪れてみたい秋保  
二口街道ツアー 62

No.37



# 道ばたの神々IV 馬場(駅~野口~森安)編



**10 森安大杉の馬頭観音**  
森安の最西端 秋保大橋東の袂に四基の馬頭観音があります。  
橋が架かる前はこから沢を迂回し新川へと通ずる道であったことから、荷役を担った飼馬の供養のために建立されたと思われる。



**9 石ケ森の石塔群**  
石ケ森はその名のとおり古くから石の出る山で伊達政宗の霊廟瑞鳳殿の石室の石はこから切出されたものです。享保十八年(1733年)森安組女講中建立の六字名号碑「南無阿彌陀佛」、文化八年(1811年)建立の子安観音像、文化年間(1800-1820)に建立された湯殿山碑、小牛田山神碑があります。



**7 上ノ原の三叉路**  
弘化二年(1845年)に建てられた六字名号碑で「右むらみち 左ふた口 大たき道」と刻まれた石塔で、かつて三叉路に道しるべとして建てたものが、道路改良工事に伴い他の石塔と一緒に澤口に移送されたものと思われ、記録によるとこの三叉路には十基の石塔が祀られていたようです。



**6 天和三年の快友法師碑**  
上ノ原にある石塔で天和三年(1683年)將軍徳川綱吉の時代です。  
法師とは、出家して仏道を修行し、仏法に精通して衆生を正しく導く師となった者といわれています。この地で村人の生活に密着して活動していた修験者の供養塔と思われる。

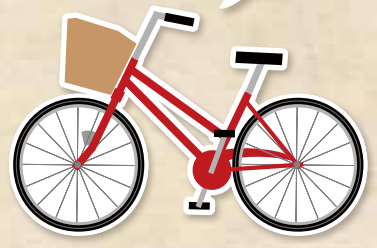


**3 町北の石塔群**  
街道沿いの一郭に大小約二十基の石塔が並んでいます。多くは墓石のようですが、道路整備に伴いここに集められたものと思われる。享和二年(1802年)當町女中と施主が刻まれた地藏菩薩像は、四季折々に供物などがあり、今でも大切に祀られていることがわかります。また、町場の出入り口に建てられていたと思われる、明和八年(1771年)と天明五年(1785年)の二基の六面幢(六地蔵と同種のものと考えられる)があります。



**8 野口澤口の石塔群**  
元禄十五年(1702年)の「南無阿彌陀佛」から明治二十八年(1895年)の「足尾山」、昭和五年(1930年)の「小牛田山神」、頭のない地藏など大小二十基の石塔が整然と祀られています。  
ここで一番大きな天明元年(1781年)組中で建立した「山神」、文化二年(1805年)野口組有志で建立した「馬頭観世音」、弘化二年(1845年)建立の道しるべとしての「南無阿彌陀佛(六字名号碑)」、文化七年(1810年)の子安観音像など十基は、上ノ原三叉路から移されたものです。  
元禄十五年建立の六字名号碑(南無阿彌陀佛)は、念仏講中秋保馬場村と数人の名前、施主本海上人貞入尼、導師見性院と彫られており、見性院という修験の寺があったといわれる五輪原から移された石塔と思われる。  
享保三年(1718年)の金智院善海律師碑も五輪原から移されたものと思われる。律師とは僧正・僧都(そつご)に次ぐ僧侶の位です。

自転車での周遊がおすすめ!



周遊約5km  
徒歩 ← 周遊約90分  
自転車 ← 周遊約40分



**5 田尻の追分石と馬頭観音**  
宝永二年(1705年)建立の石塔で、「右八森安大瀧道・左八もが三海道 見性院」と刻まれ、上部が欠けていますが、道しるべであることから、「南無阿彌陀佛」と刻まれていたと思われる。この場所から西(森安方面)に400m程行くと五輪原という場所があり、かつて見性院という修験の寺があったといわれています。



**4 下久保の出羽三山碑**  
街道筋にポツと一基在る石塔で、出羽三山参拝記念の石塔と思われる。背面に講中の名前が刻まれています。



**2 愛宕神社前の石塔群**  
愛宕神社登口には山神を祀った小さな社があることから、山神に関する石塔が多数あります。その他、馬頭観音、出羽三山、金華山、足尾山碑と宝暦十年(1760年)馬場町建立の庚申供養塔があります。



この山神に関わる石塔で、木花開耶姫の浮彫り、鎌を持つものと、子供を抱いた子安観音の二種類があります。山を司る大山祇神の娘である木花開耶姫は幅広い利益、御神徳のある神様として祀られており、安産子授けや農業などの祭神です。この他に、享和二年(1802年)に當町若婦中と施主がある子安観音と刻まれた石塔があります。



**1 西光寺跡の石塔群**  
秋保大滝不動堂傍に移転した西光寺が在った場所で、無縁となった墓石や水子供養の小さな石の他、明和三年(1766年)の念佛供養塔、文化十二年(1815年)に村内安全を願って建立された庚申供養塔と四基の馬頭観音など十数基の石塔がまとめられています。



街道沿いの一郭に大小約二十基の石塔が並んでいます。多くは墓石のようですが、道路整備に伴いここに集められたものと思われる。享和二年(1802年)當町女中と施主が刻まれた地藏菩薩像は、四季折々に供物などがあり、今でも大切に祀られていることがわかります。また、町場の出入り口に建てられていたと思われる、明和八年(1771年)と天明五年(1785年)の二基の六面幢(六地蔵と同種のものと考えられる)があります。